

各 位

2022.7.10.

祝 第 100 回大江戸探索会の開催に寄せて

大江戸探索会の会合は、本日、第 100 回目の開催ということとなりました。本日の探索会に参加されました皆さんと共に心から慶びたいと思います。

さて、当探索会は仲間内の『北上から上京して東京に住んでいるけど、東京のことあんまり知らないな』ということから、東京を歩いてみようということになって 2004 年に発足しました。

そして 19 年間続いて本日を迎えられることとなりましたが、この間、会合に参加され、会を盛り上げてくださいました皆様に心から感謝申し上げます。と共に、“縁の下の力持ち”として会を支えてこられました方々にも感謝します。

特に、菌 牧枝さんには、市政会館内の北上市東京事務所にお勤めで第 1 回探索会から第 100 回の今会合まで事務局として活動していただいております。当会が継続できたのは“事務局がしっかりしていたから”、と感謝しております。

それから、初代会長の小原正彦先輩には会を発足させていただきまして感謝。2 代目会長の小原純一画伯には、会を軌道に乗せていただくと共に、“会の旗”を作成していただきまして会の結束に大貢献、本当にありがとうございました。

そして、探索会の可否は案内人次第です。その意味では、初代案内人を務められました高橋洋明先生、洋明先生をお支えくださいました寺尾隆雄教授・洋明先生と高校の同僚でした故西木敏夫先生にも心から感謝しております。

その洋明先生におかれましては、その後、故郷・北上に帰省されることとなり案内人を仲間交代で行うこととなりました。会員が自身の地元を案内していただくこととして、主に千葉県エリアを小原 寛さんに、神奈川県秦野市を千田 納さんにご案内していただきました。本当にありがとうございました。

巷間、さまざまな会に共通の悩みは、会員の高齢化やインターネットの普及に伴うところの(会員でなくとも様々な情報をゲットできることでの)会員減があります。

当探索会会員の平均年齢は、毎年、確実に増加しておりますことから、今後、何年間継続することとなりますやら何方にも分かりませんが、故郷・北上出身の仲間として東京圏で生活しております人々の交流の場の一つとして探索会の存在意義があるとするならば“2 ヶ月に一度、目まぐるしく変化する大都会・東京の探索を今後とも継続することに意義がある”と小生は想っております。小生は、今後とも一会員として、大江戸探索会が継続する限り参加し続けたいと想っておりますので、今後とも従来どおりお付き合いのほど宜しくお願い申し上げます。

大江戸探索会 第 3 代会長兼案内人 菊池 威